

故加治屋安彦技術士が叙位・叙勲されました

故加治屋安彦技術士が、永年の研究の功績を認められ、従五位と瑞宝双光章を授与されました。

故加治屋技術士は、平成21年8月24日に享年52歳の若さで、病のため亡くなりました。

彼は、昭和56年4月に北海道開発庁に入庁され、昭和61年4月に現在の寒地土木研究所の前身である北海道開発局土木試験所に勤務されて以降、24年近くを積雪寒冷地の道路技術に関する研究に尽力されてきました。

彼は、雪崩や吹雪対策等の雪氷対策技術の専門家、「北の道ナビ」の開発など地域ITSの先駆者として、多くの方々に知られた研究者でした。

彼は、平成2年にアメリカ合衆国の道路研究プロジェクトに参加するため、ワシントンDCに赴任した経験があり、この海外経験を活かし、現在の寒地土木研究所の冬期道路分野における国際的な地位を築き上げ、研究所の国際化に貢献されました。TRB（全米運輸研究会議）の冬期道路管理委員会委員、SIRWEC（国際道路気象委員会）の委員などを歴任し、PIARC（世界道路協会）においては平成16年～平成19年に冬期道路管理委員会の連絡委員、そして平成20年からは日本の代表として冬期サービス委員会の技術委員を務め、冬期道路に関連した国際的な研究協力・技術協力に大きく貢献し、更には我が国の冬期道路に関する研究開発の内外への情報発信に尽力されました。

また、冬期道路分野の研究において、IT技術を活用した寒地型のITS（高度道路交通システム）の研究開発に取り組み、冬期道路の安全性の向上のため、吹雪による交通事故の発生や拡大を防ぐ技術開発に努力し、寒地ITS研究会を立ちあげるなど全国各地で取り組まれる地域ITSのモデル的存在でもありました。

一方、道内だけでなく道外の多くの旅行者の方々に利用されている道路情報のポータルサイト「北の道ナビ」の発案者で、この情報提供に活かされている道路用ウェブ記述言語RWMLの開発者でもありました。平成16年の台風19号、平成20年2月や4月に北海道を襲った暴風雪などの災害時には、通行止めや災害状況などの情報を「北の道ナビ」で迅速に発信し、災害時におけるドライバー



故加治屋安彦技術士



叙位



叙勲

の安全確保に大きく貢献しました。

最近では、ITSに関する研究をベースに、地域景観の研究にも取り組み、地域景観ユニットのリーダーとして若手研究者を指導しながら、道路の快適な環境づくりにも力を入れていました。「北の道ナビ」による情報提供により安全快適なドライブ環境の支援を行い、北海道の観光産業にも貢献する研究にも取り組んでおられました。

さらに、学会等の活動においては、(社)日本雪氷学会北海道支部理事、日本雪工学会道路研究委員会副委員長を歴任するとともに、若手の技術士の集まりである北海道青年技術士協議会（現：青年技術士交流委員会）においても、平成5年から5期10年に亘り副会長、会長の役職を歴任するなど、道内外の研究者・技術者の技術向上、育成にも力を尽くしていました。

故加治屋技術士の研究活動やその残された業績は、北海道だけではなく、全国および世界にも広がり、更なる活躍を期待していた中で、彼を失ったことは誠に残念であります。しかし、彼の業績が、この叙位、叙勲に結びついたことは、故人及びご家族、そして当寒地土木研究所にとって、大変栄誉なことと思っております。また、北海道の技術士の仲間にとっても、誇りとともに励みになるものと信じており、彼の築いたものを皆で継承していきたいと考えております。

（文責：寒地土木研究所 西村 泰弘）